



武家嚴制錄續篇

寸
一
止

73
6534
18



門 73
號 6534
卷 18



武家嚴制 雜續篇卷之二十一

一 竹垣極少再緣口 仍出舟 溜注並法流及布衣

以之 亦後人 亦為 亦後 亦係 亦以 亦亦 亦四 亦村 亦之 亦之

珠 亦西 亦九 亦也 亦出 亦結 亦不 亦及 亦公 亦事

一 表向方名以上之西之陸姑共之月番之老中之

以史者亦後係之 亦中 亦上 亦也 亦對 亦馬 亦与 亦宅 亦也 亦出 亦公 亦之 亦也

亦公 亦之 亦及 亦公 亦事

一 在國在色之西之矣 飛札之 亦之 亦也 亦也 亦對 亦之 亦也

宅 亦飛 亦札 亦之 亦之 亦也 亦也 亦不 亦及 亦公 亦事

昭和十四年
一月十九日
晴



右ノ後ノ多ク解ひル

六月四日

見

一 竹取禰史與ノ付白土付ノ座此道具ノ史共
閏九月中ニシテ多ク美出来節々ノ閏九月
ハ目錄色上可付、亦云十月ノ下ノ元々ト
下

右献上ノ吉日方々ヲ習習上可同同也

一 沙道具ノ外場物除去昔月ノ後ノ務事
以事同同ト云々

但端物條亦箱入入不及屋台台ト云々

一 献上除日 八日 九日 十日 十四日 十五日

十七日 廿日 晦日 献上ニ用用ノ事

一 沙道具具ノ始巻物條條ノ持持ト云々大ニ保保ト云々

ト云々合合

但沙道具具外箱箱條條ノ是又人人ト云々

七月

一 献上物物付古殿殿法法名家家ト云々

此度献上物物ノ所送具具ノ亦殿人人由由候候送送分

高高出出ト云々者者端物物是物條條ノ後後ト云々

相平左源氏武島左の山をさす。清和の
子等若右衛門上座之方其内一系在 上條
村、右條、柳子とす。管うらぬい上

七月

- 常陸三月八日若村上座園上田孫今泉村百姓之
年人寸八郎の父を切殺男子身許負を後名
以申九郎の中人之路を傷人相也
- 之路を傷生園之加仁田山村
- 面丸殺少男之但髪あり
- 了りき中心人

- 鼻筋厚
 - 目丸くめきつる多う
 - 胸より毛あり
 - 中せい
 - 手足毛多く有り
 - 舌のい大きき物人良頼也と見え
 - 肉中ふり年三指一二と見え
- 右通若村有るを其子苗を清科若
清代左利根も地取中出立より清科子孫と
以相大和とす。其子右男少りの若見え及

以て之を服つて其の毒を去る事其の亦と云
て遂に吟味し善法を存し振うて其の如く
曲事以上

西七月

植村佐手治家^{サキ}孝治用自武由山至飛沙乃
村と云我々名之節、白雲寺の道業寺後之
節、但治料内又文、新成并寺社、
宿舎、成友所、お屋、
業字巻

細引ア、ま、包、礼状

- 一 うを屋り 三指板
- 一 却しり 百枚
- 一 と海 百枚
- 一 業字あは男、女 五人
- 一 其の所、心助、安、内、女
- 一 人足

是、其、所、用、不、し、り、佐、手、治、家、以、来、可
及、其、所、用、不、人、足、其、中、多、数、の、用、意、に
て、用、人、足、其、所、用、不、し、り、地、是、也、
寺、後、一、切、之、用、に、代、表、和、言、支、配、に、内、代、

去人附流結中法用之其并私願方之其有
後人去人附流法中其有并之以上

周九月

西出付之字

大目付

中流所屬之彼方位也 任出并之乃名以上之西

之別御 大納言格 為所役係用存其之儀法也

對之字也 出之字也及紙

但病年幼少位者之西之乃名之也

高取原之儀也奉者妻信書以法物取布衣

以上之儀役人之在以上之儀之在跡也其儀一也

再九丁之儀也出也

在國主也之儀也老中對之也飛札之儀也

右之儀也之儀也

九月廿二

和南院信中将德川右衛門尉宗武之字孫也

是

去其年安倍川為井川浦白川等之儀也其儀也

此入用之儀也其儀也其儀也其儀也其儀也

其儀也其儀也其儀也其儀也其儀也其儀也

公儀より指かき其時りて右ハケ國一四料私儀
社儀共々少少かきそ余りて高百石より千石一
里或又三丁ト一村ト再立て高百石を以て納
し右ハケ湯代名森林也四段池田新嘉山田法在
石或人一月一丁以上納す

一 寺社願しる者料並所々所々支配し少代友ハ
五集私儀也所々其儀願主地以五集湯代友
所主地以是也又本代信一内一丁以上納す
一 湯願しる者込込一丁以上納す村々納す知り
若し右ハケ高百石以上納す一丁以上納す

公儀兼文一海也月少納定所出儀也所々高社
願儀も右ハケ一海也納す所々所々願主地以寺
社願しる者出加りて納す
一 高あり重納す一少代友分法取形取高所
知り出月お海也納定所出儀也所々事也

西十月
是

- 一 高何祝 何玉 何歌 何村
- 一 高何祝 何玉 何歌 何村
- 一 高何祝 何玉 何歌 何村

右同形

高合何種

此高役全何種但高百石身

年三三由十
浪成女三ト
由智之指女之身

一何種

何種何種 何村

此高役事何種

但右同形

一何種

何種何種 何村

此高役事何種

但右同形

右考去年年安信川大井川瀧白川母
何種高役全高百石身
高百石身一何種及注方一何種

年号月日

少幼是也

是

去年年利根川江元川鬼怒川山奥川母
高百石身一何種及注方一何種
高百石身一何種及注方一何種
高百石身一何種及注方一何種

私所寺社所長に不残する百石身事武友と銀指
之交七下り村に有る集り尚而十一月を限り上納し
管ふる方此代友小梅文に請ひ増田を備林を坐
中島内宛身有る人一月に上納し事

- 一 寺社願より材料を示す其の支配に代友を集
る松所を示す其所願主地取に集り此代友
並所主地願方是又此代友一月に上納し事
一 海所より是迄より未勿海取る村に有る之惣りい
管ふる方此惣り事上納お納お請ひ上納し
願知より列成案文に此地取に上納し事

この寺社願に依り右之通去村所動定に此指
出るるこの寺社願に依り右之通去村所動定に此指
ふる所主地取有る社願より去りては此取有る
一 寺惣り金取納り事此代友分請ふる形取之願分
ふる方お請ひ此動定に此取有るに上納し事

丙 十月

所動定に

是

一 高河社

河國河歌河村

但所願より是より并改出、新國に

一 高河社

河國河歌河村

一 高何種

但右同以

何至何款

何村

之何種

此等没金何種但右同以

合或步一銀指之何種
而皆外指八五上下

外

一 何種

何至何款

何村

此等没金何種但右同以

一 何種

何至何款

何村

此等没金何種但右同以

右等三申年利根川江戸川鬼怒川小貝川

海出普請身何種之没金出而之進取利村之皆
与社所之多少之元立之西代友誰方一相納中の上

年号月日

誰家來
誰下

所動之何

元禄年中中金銀出替以來是米穀之進取之定
色年々之進取之進取之借金課金貸物利率
之進取之進取之法人致難儀之申取之進取
元禄十三年年年已來一借金課金之向後利率
之進取之進取之善前一借金課金之進取之進取
致取一借金課金之進取之進取之進取之進取

- 一 兵今元利お津多老々及減少の所法不及
- 一 太之趣双方お遠之の故、意及におさけ之趣凍滞ゆり借之元々有の所にお座るも又古きより利重りさるる故に借り至り出さる
- 一 新規の借金程々にお對必事として下、格とす利をさるる事
- 一 太之趣意及におさるる也

丙午月

一 戸田山城も辛去身困お表向一面光中

- 一 宅上の款日丈去るも、お撤隠すお伺する
- 一 但對するも老々意及におさるる
- 一 厚の旨諸弟の旨御頼法甚政法物政徳没今為の、お撤隠す時、城の事
- 一 但西丸不及お仕るる
- 一 在國在邑の由、お飛札の旨及我の事
- 一 但對するも、お飛札の旨及我の事
- 一 喝物者今日、申月二日迄借り、
但言信去る苦し
- 一 太之趣、お頼り

十月廿九日

本年法人協同向新協身信年銀利分亦相
減出積之存之信出先身法相借之年分二納紙
少用控之存之信出先身法相借之年分二納紙
信之存之信出先身法相借之年分二納紙
右之海之存之信出先身法相借之年分二納紙

西十月

一 ありまの 作中債約の 延望つておるを本年米價
ふる下也身法人收難候事おまひの存之度
之縁十の年々米の米の借年銀の及向仔利

おまひの存之度 延望つておるを本年米價

一 惣言を奉り風俗を治む右取或新設法海軍出倉
の言科理之存之信出先身法相借之年分二納紙
の言科理之存之信出先身法相借之年分二納紙
の言科理之存之信出先身法相借之年分二納紙
の言科理之存之信出先身法相借之年分二納紙
の言科理之存之信出先身法相借之年分二納紙
の言科理之存之信出先身法相借之年分二納紙
の言科理之存之信出先身法相借之年分二納紙
の言科理之存之信出先身法相借之年分二納紙
の言科理之存之信出先身法相借之年分二納紙
の言科理之存之信出先身法相借之年分二納紙

一 嫁娶之用之法是をいふも限之趣し。 一 信の

格之者其對斗自忌用卯之者其後抄少神祇之下
是神子之對之羽裁忌之也
右之海之之相觸

十月

此是具系之忌者 敬申何去之由之彼抄少神
麻之不可忌用之

是

一 來之十日 此入樂之此是節十日之男之忌
女之忌者

一 此道節之屋受之門之山之忌者

一 此有之門之内之忌者
一 窓之無戸之仁嬰之忌者
苦之事

十一月

是

一 此入樂之日酒法初之代在人之名法也
弟之方家法同嫡子布石之忌者
地對斗自忌者用之也

一 此入樂之日所之家初法大布衣之忌者
家合之由之忌者地對斗自忌者用之也

終 城より

一 西丸より不及出仕の事

右へ通すお筋のこと

十一月

元旦

一 沙入薬の沙南日水漬代元大自極回出の事

戦心海よりより宗格進北より出列

沙出興の及の致也 城より

一 沙入薬の沙南日水漬代元大自極回出の事
西丸より出仕 城より外去る在富く水通より

家つ外よりお名あはれ

一 水時折り

一 沙入薬の沙南日水漬代元大自極回出の事

水の時意用

一 火元入念取の事

一 沙入薬の事

所産あり

沙指事

沙賄取

奥山より

沙基不取
沙同明亮

沙长至西一角

沙入鑿沙用与動

沙動定方

沙云要亦

漏若

三家

一斤若若

沙基老妻

兼之若若若若

同嫡子

莫若若若若

大御書改

沙中院為改

沙小姓能為改

中與西小姓

林大學改

同百也

中與沙書

表沙右子

中沙門外

布右以之通

中素稿

沙信代大名

同嫡子

一西也沙没人今大之推也

十一月

筆銀出入の故年功所不元之限去年去年相觸
均方也年筆銀通用相觸と申すは身月高月
之借筆銀買取り木出入の故年功所不元之限去年去年相觸
之任年之筆銀之故年功所不元之限去年去年相觸

十二月

元旦

- 一 乃筆銀之正統校考申若年功所不元之限去年去年相觸
- 一 年功所不元之限去年去年相觸

下

但風想之故年功所不元之限去年去年相觸

- 一 寺社之方も之為前之通年功所不元之限去年去年相觸

右前之相觸之故年功所不元之限去年去年相觸

十二月

十二月十九日

- 厚之同信 同嫡子
- 乃養者數 同嫡子
- 菊之同信 同嫡子

十九日涉能山 宿于溪畔之舍 宿于月
屋中月長橋者用六時之燈 城山月夜
城山月夜者夜好也

十二月十日

十九日涉能山 宿于溪畔之舍 宿于月
屋中月長橋者用六時之燈 城山月夜
城山月夜者夜好也

十二月十日

十九日涉能山 宿于溪畔之舍 宿于月
屋中月長橋者用六時之燈 城山月夜
城山月夜者夜好也

十二月十日

上妙仁田山村百姓之哀言 昔者苗一月八日同書
一者上泉村元人言 昔者苗一月八日同書
一者上泉村元人言 昔者苗一月八日同書
一者上泉村元人言 昔者苗一月八日同書
一者上泉村元人言 昔者苗一月八日同書
一者上泉村元人言 昔者苗一月八日同書
一者上泉村元人言 昔者苗一月八日同書
一者上泉村元人言 昔者苗一月八日同書
一者上泉村元人言 昔者苗一月八日同書
一者上泉村元人言 昔者苗一月八日同書

十二月十日

近年米下也 如 諸君公人 今者 入 進 智 賢

東醫聖經中政書出武拾六冊久年板均
治作世及至院以下才一本其部有七
拾八本以中本為最其有六拾本、壹後各公
百也、向言本同在事

二月

是

水戸軍在殿遊去、月日、河津機極、以八日、
家門方始、諸物、以、諸物、以、諸物、以、諸物、以、
等等、城、事

付、家門方、外、西九、一、及、城、事。

一 善信者、台、信、心、事

一 鳴物者、七、日、信、止、事

三月

右、通、言、本、觸、

是

一 相、在、本、像、台、信、心、事、十六、日、信、道、事、石、上、
向、言、本、觸、

字深十六庚戌年分

正月

朔日

六时抄

二日

六时抄

三日

六时抄

明日快活淫初身空 坤向言时抄本
书抄之私下中月心上

正月二日

兑

乾字入事一依在宣年限用相与今心後

法合之積正合令度一買元得共今心沙り此
負教也多く依、向好若決意在在通延用信
但新令并度長令去去、代乾字令部去、
お調心乾字令去去、新令度長重部、
積了、今心、く、公事

一 沙年首諸運上、始 云、儀一納心於、今心、或
手、笑、給、令、且、又、諸、道、之、供、商、買、地、代、令、心、去、去、
今、心、之、取、去、去、及、右、之、積、心、延、用、之、公、事

戊正月

者、通、之、心、お、觸、心、心、上

一 在周在邑、病年幼少忘中、
名代を人死、
月者先中、
有、通系石、

四月十二日

河勝日向、
以年、
河用、
相、
河、

河、
系、
右、

但、
河、

戊、

上、
与、
下、

西、

四月五日

武家嚴制源續篇卷之二十貳

覺

一 尚二月市休所、向、尚秋九月中春初、時、
言、相、何、公

一 尚二月系熟、向、若、尚九月、休、所、言、相、何、公、
熟、時、言、來、年、九、月、中、言、相、何、公

一 尚九月系熟、向、若、尚四月、六月、休、所、言、
公

一 若、春、系、熟、之、向、若、尚、九、月、中、系、熟、言、
公

戊辰月

今浪浪札を有し其要者先年札を以て其
白存者希くし通札を以て其要者希くし
其法

但札を以て其定者以て其法

右に紙を以て其法

戊辰月

水野和泉と事通年病才月 以て其法
以て其法

六月十二日

松平右京大夫事充中

信守山札中其外 以て其法

白存中一通其法 以て其法

層々在國在是 以て其法

其法

其事其法 以て其法

右一通 以て其法

七月

江戸中より其法 以て其法
之接し其法 以て其法

島に存一ちり所く、捨場お定し、何所くの建
礼建垂く、各尚七月、古く場、一を可捨、
又、お船おる、き、依江、可安、い、お宵、との
持、多、古、急、夜、曲、事、可、何、者、也

戊七月

布、通、く、お、ま、い

上州、仁田、山村、百、地、く、お、ま、い、者、云、自、二、月、八、日、
同、五、今、泉、村、元、主、人、也、お、ま、い、父、子、と、切、敷、一、次、男、
子、依、自、也、汝、久、原、は、何、月、年、七、月、午、三、時、人、お、ま、
ま、く、お、船、お、ま、い、今、の、お、ま、い、久、原、は、お、船、お、

人相、古、く、お、ま、い、者、有、く、老、跡、は、油、の、お、ま、い、
在、貧、猶、磨、也、才、一、の、ま、い、
石、お、ま、い、お、ま、い

戊七月

実子有、く、お、ま、い、魚、る、老、中、お、ま、い、
妻、子、お、ま、い、上、る、実、子、有、く、お、ま、い、
有、く、お、ま、い、名、お、ま、い、
病、床、お、ま、い、老、中、お、ま、い、
お、ま、い、入、用、く、お、ま、い、
後、お、ま、い、若、親、床、く、右、く、お、ま、い、

病家使制官嫡子江每以刑方心老中並
改支配而一言水同動也來子之白も同地
事上

石通之長水船公

戊八月

河州學田八幡文御堂有白江戸外夏内動化
之今度社信も水船之屋之信也
公識より水船之附之有白依之江戸の諸大
名に換申之聞之並家中寺社町方水船内子
有之而此以私腹之支動化之我々共也

社信大巡河之水船之官志之業中実を之
勿論志中者中押之動を之彼之
之用は行動化状之載之業之好之也公之

十月

今日於 河城松平左近将監之度水船内
之水船方之通滞中、此是為之、馬出船等
方、之、水船之公之

十一月十四日

石月付

月十三日右邊持反前、此は月系石之上、向
公方極 之網之極一為之役、成左近将監封

馬書方一史者云云

但病家切少隱居一問云云

高家厚之官信以奏者著洪書以物以布

云云云云云云云云云云云云云云云云

西九丁丁云云

在國在邑一問云云

石通丁丁云云

十月十日

世骨月松平左近將監取正波一云字云云

以如返山の上

十一月廿二日

石月付

大納言梅江麻疹之持子有白

西九一為河江様撫以廿二日想出江之事

河江九一云云云云云云云云云云云云

云云云云

一病家切少一問云云

失若云云

一在國左邑一問云云

一在江戶院居一問云云

新ふるまは侍者より致す
 一 左國を色く強居るも衆も飛れり致す
 一 ぬせりよとぬ濁湯なるるに毎日對するも方そ
 使者のり致す
 右に通可立相觸るに

十一月廿二日

西丸へ麻痺病人並着病人指折る向好
 の及そ候るも家より母より

十一月廿二日

此書付松れを為監度候も字おとる所也

席ふ殘振へは通をのりては折るも無津能
 せし方よりお返し

十一月廿四日

大目録

大納言極中麻痺候候身為御殿候仕

廿四日

月次録日仕分

廿六日

月次十番仕分

廿六日

月次廿八日仕分

右に西丸より色 坪の詰らぬ所奉り致す
 西丸へ御書候りてお返し

十一月廿二日

松平左近將監及坂城、吉村、字おと、吉
あつらふ有馬出羽守方、二、三、おと、あつらふ、

十一月廿七日

大目付

三え

一 尾張中納言之殿、抱去、身、何、所、藏、嫌、何、廿八日、想
四、江、

但、所、家、門、印、西、丸、及、也、坤、

一 病氣、幼少、隠居、西、月、暮、中、守、使、

二、三、乃、執、事

一 右、玉、左、色、面、去、飛、札、差、城、

從、左、因、左、色、是、嫡、子、隨、君、右、目、

一 普、濟、寺、今、日、二、日、停、止、事

一 增、物、廿七日、停、止、事

太、二、三、、可、お、筋、

十一月廿七日

世、所、吉、村、松、平、左、近、將、監、及、坂、城、吉、村、字、お、と、吉、
あ、つ、ら、ふ、有、馬、出、羽、守、方、二、三、お、と、あ、つ、ら、ふ、
能、お、と、あ、つ、ら、ふ、

十一月廿七日

是

元

- 一 五百石 金三指五
- 一 四百石 同廿五支
- 一 三百石 同二十支
- 一 二百石 同十六支
- 一 百六十石 同十支
- 一 百石 同七支
- 一 七拾俵 同六支
- 一 四拾俵 同五支
- 一 三十俵 同三支

- 一 二拾俵 同貳支
- 一 二十俵 同壹支

右の如き物も大に百石以内の等物も元小役人
 並國小役人亦その外此流与力同心坊主小人中
 万思獄と考越る水増代と云々難事と考と申す節
 此の相借云 何れも其まき言より十ヶ年返納可
 紅

尚時相借なりと考いそと納お海い心好けなり
 相借十ヶ年とのと云う酒
 此の如きもの相借と考い故 少免と申すは後居家替

お集りて此長き方の納め不及なる由きり
つるに納め

一 少技持方斗五老の十人技持を以て儀に積り
ありし事

但西切年より此技持方を以て納む
右に通りお心持し

成十二月

見

一 為業書に祝儀光申着業書申すお心持儀共八日
お務り次第見合建合の儀に次第見合

三三系

一 年政書之日より七日と内志何儀お建合振に務り
次第この事

付凡想の儀書の日政に為る用い

一 寺社に委ねたるありし由町人諸職人等より為
同あり

右に述あるお筋の由儀に老大衆を以て振上
りお務りこと

十二月

台徳院様

百年忌年月廿四日御礼

正月廿四日増上寺にて縁糸と但物屋住の間に
致不出子牛にて縁糸と

引列のあはれ

一 西儀代宛

一 申大者

一 厚くは諸第と名縁糸諸

一 法衣更に西役人ホ

一 石束帯とくた力帯と正月廿四日増上寺にて縁出
の事

一 石河後儀と若小勢と名縁糸と

十二月

是

- 一 持妙天主寺修禱と名法園勤化と事と及社僧
たお釈と通と名縁糸と 乙辰よりと西寄附と事
- 一 茂有と依と法衣名並に縁糸と名と寺社
町方と名と西料和風と名と縁糸と勤化と
社僧と事と名と巡り縁と名と勤化と事と
と事と名と名と勿備志と名と寺と揮と勤と事
と用と名と勤化と名と縁と事
- 一 社僧と法園巡行と名と縁と事と名と縁と事

一 社僧并法團巡行を以て其を以て人馬之常儀なり
 此科者此代交私所去以主地改より中身をも法團
 巡行致動化の中ありしより其後より所不あり
 在り市所代交私主意地改より其後致動化
 物於江戸更に其後致動化を致す事ありし也
 うるはしむ

戊子三月

右と通してお願ひ

是

所番真然と是

- 一 白銀 拾枚 六十万石以上
 - 一 同 五枚 二十万石以上九万石以下
 - 一 同 三枚 十万石以上二十万石以下
 - 一 同 二枚 五万石以上九万石以下
 - 一 同 一枚 三万石以上四万石以下
 - 一 同 二枚 二十万石以上三万石以下
 - 一 同 一枚 拾万石以上三万石以下
 - 一 三万石以上其以上は法事より其指上事なり
- 白銀拾枚 是

一 根是の四方より列の勤の事其後出たての事
一 行の事勤の事年をたはせたるは出たての事
一 出たての事年をたはせたるは出たての事

正月三日

大目付

足

一 公方様此風業を御覧せ 御成の事
一 大納言様御覧せ 御成の事
一 出たての事年をたはせたるは出たての事

正月十日

此の事付松伊豆事取御覧の事

申ふ御覧の事取御覧の事
御覧の事取御覧の事

正月廿六日

大目付

足

禁裏 法皇御覧の事取御覧の事
御覧の事取御覧の事

一 病の事御覧の事取御覧の事
一 出たての事御覧の事取御覧の事

右通三お筋い

十一月廿五日

此書其月之趣松平伊兵衛殿に渡りて字おき置
序ふ所極之趣をてりて上紙紙を連るり
之田周防も方へのお返しと

正月十二日

大目付

台徳院極少御年出法事於増上寺

正月

廿日

初日

廿一日

申日

廿二日

踏鞴日

是

一 尚正月於増上寺出法事申ありて趣或目三合角
寄合言て付勿漏携問も頭武碓をてりて後者
て為之用事

一 出法事申言譜写物系礼法も亦ふ及おきと

正月

松平加賀守

松平肥後守

松平中総守

牧野河内守
土岐丹後守

右より南正月由法事申る河内丹後地水菓子
正于菓子月言然水精色の水者そ不及然
と云

右より左府美石と云ふ不及然と申法事申
深水精色の水者そ及指事申
右に通つと云ふ

正月

来七七日大改り申る如素山

一 柳宮、少希指言、法事其長引あり、水動
言、水事申る、中流本流、水事方、と云ふ

一 少清、水事及中流、水事、彼釋、水事、
水事、申る、と云ふ

一 水、昔、水事、南、水事、引、水事、水事、
水事、水事、水事、水事、水事、水事、

一 水、水事、水事、水事、水事、水事、
水事、水事、水事、水事、水事、水事、

水事、水事、水事、水事、水事、水事、
水事、水事、水事、水事、水事、水事、

飛彈ち方へ出たし一のぬきとこ

三月十二日

大同身

来々廿四日増工等 沙霊屋へは托 沙希清い等
其東等うくくち刀等沙列西勤の事本は成る
後

一 同廿六日 同身

台徳院様 沙霊屋へ 大納言様と托
沙希清い等其東等列中終る事くち刀等あり
うち本正勤の事

一 同廿九日 同身 沙霊屋へ 大納言様と托

いり大紋よりあり西勤の事か 大納言

作事たりありの事成り西勤の事 成り廿五日廿九日
之度より列止しあり存あり是時とて内は成り飛
方へつらまを委細古道ありあり

沙成り西勤の事又火の事並沙つ事と當番去り列
ふ及り勤り北番の事方沙成り西勤の事見
屋敷有る事あり列西勤の事とて編り西事付
この事あり

但大子極田西九大子西勤の事あり方大子極田
極田と妻あり南番 北番あり 同身

水無

- 一 何處供く若小辨てら百達い
- 一 振明く水方行列の事水無いを假して水出付てら
- 一 行列水無くもるに信実の存あり水無く假て出来
- 一 して飛浮き方一ありてら信実い以上

三月廿八日

大目付

遊歴の事つら雨てら
 大酒の御 活業信水出りたて七・活業信
 之は 辨りたる名を世に行列、水出元在七、
 水出無くもるに名高き、水出方也を立水無

- 一 此等、此の事水出先水心得中事信無
- 一 あり別記ホてし事、以その事存、し事無くもる
- 一 之りあり古く成水事付今、小明後、高し付て
- 一 しててら水無い以上
- 一 水出事水出付る事、其水出、其水出仕者し、ら
- 一 水出てら水無い

四月

酒井備後守殿水出、水出字二無水。
 堤有馬生羽守殿佐渡守方とて、水出同席
 中御、水出とて、水出とて、水出とて

思百寮より人々来りぬる事又も亦在りて同席
中程仕後書にて波重進より名を記す依り
私書各紙より中程名より名を記す此等
依りて記す思状亦次至道より批書より
うらりて上

湯井仕後書内
松田茂九郎

百石以上より今も病身又も志申出る事
據之に分書来りて思状見物し依りて
一月より物に依りて名を記す
出江より後て思状見物し上

二月廿五日

國持大名目録子

酒造

小幡成去名目録子

和紙久名目録子

湯妻吉書目録子

菓之島那那目録子

今度 台徳院御面回沙忌由法事お願ひ仕
来りて八日御能事 依りて名を記す
のし。と結着用五時下迄は 味も不月 並

完蔵せしむ去りて去る

右の札老中對する古抄事

涉能見物以後札と燬去進して

三月

杉平左を水監及有る

し字 大目付

近年赤旗米下取付る者

以取ておん得るもの依り

年より丑年迄三ヶ年

し与り信衆已上

亥二月

以度万石以下所籠事

し無り何出る方以難

二月

万石以下

出旗本

本旗伝具随分有合

用新紙に候りて用

おのりておのり

但止着

同役志く致事之其出之りて之を備致五十
以上五十五以上之計は不調法に至る
作之志通言 作之者 右田海平と出せお水望
土之彼者毫の注液は在希右也 病者有と名代
河野佐清と承之

二月廿六日

享保四年秋四八日 出

五十五以上七十以下之者 若子形判元之は後之
無用

但五十五以上之者 俸取果は之を之に若子形

年以て之格分り

右形之に之を海平

一 五十五以上之者 存家ありて子連若子あり形也
若子形ありて親之通其存て之俸付し事

但五十五以上若子あり親之内相果ありて
若子あり果ありて是悟ありて之を形也
之俸付し事

右通以上若五十五以上之者 俸若子親と信
十号あり事

享二年十月八日

Blank page with scattered ink smudges and a small dark stain at the top left.

Blank page with scattered ink smudges and a small dark stain at the top right. Faint, illegible ghosting of text is visible through the paper.

